



ひなどり

園だより 10月号
令和元年9月27日
新潟市立新津第三幼稚園

不思議発見の繰り返しで、本物の知識ができる



園長 間嶋 哲

今年度の誕生会、私の役目の一つは、数枚の絵を子どもたちに見せながら、昔話をする事です。4月は「カチカチ山」、5月は「花咲じいさん」、6月は「金太郎」、7月は「浦島太郎」、8月は「桃太郎」、9月は「したきりすずめ」と進んできました。もともとは、日本の代表的な昔話を聞かせたいという思いから始めたものです。もちろん、すでにDVDや絵本などで知っている子どもが大勢いるかもしれませんが、何度聞かせてもよいと考えています。改めて話の筋を追っていくと、それらの話の展開がどれも、私たちの国が昔から大切にしてきた道德観を、そのまま反映しているように思えるからです。

私は、折角なので、昔話を単にするのではなく、タイトルを想像させたり、話の中に出てくる内容から問題を作ったりし、子どもたちとの交流を図っています。「したきりすずめ」の話ですと、おばあさんの言葉として次のような一節が出てきます。

「ふん、あのいたずらスズメ。わたしのノリを食べてしまったから、舌をハサミで切っちゃったわ。」

まさにタイトルにつながるエピソードです。ところで、ここに出てくるノリというのは、決して黒々した海苔ではありません。音声だけだと誤解されるかもしれないと思い、白いノリの絵をホワイトボードに張っていきます。ノリが、ベタベタした（接着剤の）糊であることが想像できます。

話が終わった後、子どもたちに聞いてみました。「このお話で出てくるノリっていうのは、みんなも工作で使うノリのことだよ。なぜ、スズメはノリなんて食べてしまうのかなあ？おいしくないよね」と。様々な子どもが、想像した答えを自由に披露する中、普段あまり手を挙げない男の子が、「食べられるノリもあります」と、いつもより大きな声で話してくれました。

その通りなのです。ここで登場するノリは、おばあさんが障子の張り替えに使うために、米から作ったものなのです。そういえば私が子どもの頃も、紙と紙をくっつけるのに、ごはんの粒を使うことがありました。考えてみると「糊」という字も、こめへんです。

その子が果たして、そこまでの知識があったのかどうか分かりませんが、あまりにも的確な答えに驚きました。もしかすると、ご飯粒を手にとりてノリとして使ってみた経験があるのかもしれませんが。お話の中には、少し考えてみると不思議だなあと思うことがあるものです。時には、子どもに読み聞かせながら、不思議発見の旅を子どもとともにやってみるとよいかもしれません。子どもの知的好奇心を高め、生きた知識を豊富にしていくのは、このような些細な営みによるのです。

